

1 本園の教育目標

キリスト教精神に基づき、健康で明るい心の豊かな子どもを育てる。

心も体も健やかで明るい子ども

豊かに感じのびのびと表現する子ども

意欲を持って活動に取り組む子ども

2 本年度重点的に取り組む目標・計画

- (1) すべての保育士が園の教育目標および指導計画を共通理解する。
- (2) 子ども一人ひとりの読み取りや指導の方法等について、保育者間で率直に意見を交わしたり互いを肯定的に受け止めたりしながら相談する場を作り、時間を工夫してコミュニケーションを図る。
- (3) 全職員が園の運営や経営について関心を持ち、一緒に園を作り上げるという意識を持つ。

3 評価項目の達成及び取組状況

	評価項目	評価	取組状況
1	教育目標や指導計画の共通理解	B	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもの姿から月案・週日案を作成し振り返りを行い保育の充実につなげてきた。個々の取り組みについては成果を感じているが、行事・全体の活動へ向けての目標やねらいについて共通理解の為の話し合いが今後も必要と考える。
2	教育・保育内容を深めるための園内研の充実	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園内研修の時間を工夫して捻出し、継続して行うことができた。年度末には以上児、未満児の職員合同で研修を行った。 ・園内研修の内容については、手探りではあったが主幹教諭と研修担当職員が中心となり話し合いの焦点化と着地点について意識し行うことで保育に活かすことができた。
3	保護者への対応	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス5類移行後は、保護者の行事参加を制限なしに行うことができたことで、園の教育についてより理解を得られた。 ・保護者と子どもの育ちを喜び、共感していけるよう日々の子どもの姿を丁寧に伝えてきたことで保護者とのつながりを深めることができた。 ・保育中の子どもの発熱（体調不良）等について、ウェルネスセンターと連携し細やかに対応することができたが、的確な指導と対応を速やかに行うためには専門知識のある看護師が在中することが望ましい。保護者対応について、保護者の意識の差があり、対応の難しさを感じた。
4	園運営の自分ごと化	A	<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の情報共有について、意識が定着してきている。 ・園の事業としてやってみたいことを職員間で出し合い、「広報」「資質向上」「食育」「地域との連携」について担当ごとに計画運営を行うことで責任を持ち取り組むことができた。 ・園内研修を積み重ね保育の話をしていくことで、互いのことを知り合える機会となりコミュニケーションがとれていった。

評価（A…成果があった B…どちらかと言えば成果があった C…どちらかと言えば成果がなかった D…成果がなかった）

4 総合的な評価結果

評価	理由
A	こども園開園1年目の成果を生かし、見えてきた課題を具体的な取り組みにつなげていくことができたことと評価できる一年だった。

評価（A…成果があった B…どちらかと言えば成果があった C…どちらかと言えば成果がなかった D…成果がなかった）

5 今後取組む課題

	課題	具体的な取組状況
1	保育の質の向上に努める	未満児保育について学びを深め、日々の保育の充実につなげる。園内研を通して一人一人が意欲的に語り合い、見方考え方を広げていく。また、ECEQを行うことで外部の視点からも教育保育実践の質向上をめざす。
2	子育て支援の充実	未就園児サークルを通して子育て支援に努める。保護者が保育体験をとおして、子どもが体験している世界を知り園への理解を深める機会とするとともに、子育ての楽しさを知ってもらう。
3	2号認定の保育の充実	保護者が迎えに来る時間まで一人一人が安心して充実した時間を過ごせるように、保育を見直していく。

6 学校関係者評価

子ども達が活発で、自由に遊んでいる様子が見られた。職員も明るく元気な印象で好ましい。保護者アンケートの結果は概ね高評価であるが、その中でも出された貴重な意見を真摯に受け止め、次年度に活かして欲しい。引き続き保護者への情報発信やコミュニケーション等、園と保護者が連携していくことが大切である。自己評価アンケートの結果についても概ね高評価であるが、項目によっては捉え方に相違が見られた。今後も職員同士の意見交換を積み重ねながら、園運営を行っていくことが必要である。